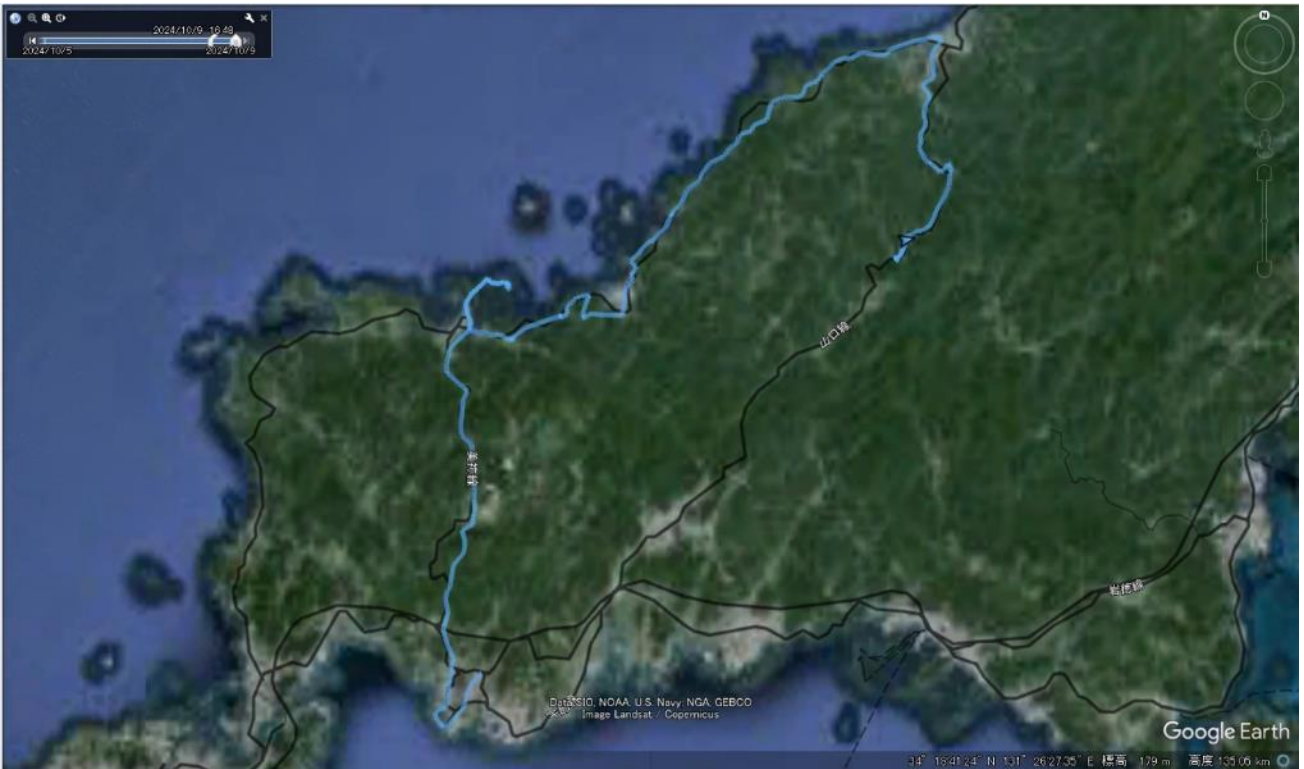


☆5 日目 (10月9日) : 宇部から津和野まで



行程地図 (5 日目) _記録 OLYMPUS TOUGH TG-6

朝 5 時半、外はまだ暗い。雨は降っていないようだ。6 時からホテルの朝食。昔仕事で泊まったビジネスホテルでのサービス朝食を思い出した。ここはお弁当形式だが、手作り惣菜で美味しかった。



写真 131. 5 時半はまだ暗い



写真 132. ホテルのサービス朝食

今日のコースは、まず一度瀬戸内海まで南下して、走り残している海岸線を走ってから、日本海側に移動する予定。



写真 133. ここまで、1,550 キロ走行



写真 134. 晴天の工場地帯を抜ける

通勤の車の中を抜けて、程なく「きららビーチ焼野」に到着。とてもきれいで素敵なビーチ。南国を思わせる椰子の木の並木も素敵だ。晴れて良かった。



写真 135. 「きららビーチ焼野」



写真 136. 「きららビーチ焼野」の椰子の並木

「小野田セメント」で有名だった山陽小野田市を抜けて県道 316 を北上する。秋吉台の西の山間を抜ける快適なツーリングロード。本州の幅の細いところを縦断するので日本海まではすぐである。



写真 137. 快適な県道 316



写真 138. 厚狭川（あさかわ）に沿って北上

県道 34 に入って進むと、日本海が見えてきた。長門市も見たいところは色々あるが、今回は青海島に向かった。



写真 139. 仙崎湾が見えてきた



写真 140. 海保の巡視艇が停泊していた

道の駅「センザキッチン」に立ち寄り、青海大橋で青海島に渡る。青海大橋は、欄干にかわいい魚のプレートが付いていたり、階段塔に天使か少年のオブジェがあったり、おしゃれな橋だった。



写真 141. 道の駅「センザキッチン」



写真 142. 青海大橋に入る



写真 143. 欄干の魚などのオブジェが素敵



写真 144. きれいな景色



写真 145. 美しい仙崎湾

青海島は、明治時代まで鯨漁で生計を立てていた島なので、関連施設がある。



写真 146. くじら資料館



写真 147. 鯨のオブジェ



写真 148. 「有情の碑」



写真 149. 裏のお寺にある「くじら墓」への案内

くじら資料館裏手の清月庵境内に元禄 5 年(1692 年)に建てられた「青海島鯨墓」がある。



写真 150. 「青海島鯨墓」



写真 151. 清月庵からの眺め



写真 152. 青海島の県道 283



写真 153. 青海大橋から長門市内を望む

ここから県道 287、国道 191 を走り、三隅インターからは海沿いを走っている山陰自動車道（無料区間）で、明石インターまで行き、道の駅「萩・さんさん三見」に寄った。この後進んだ県道 64 は、海を見下ろす踏切など、珍しい景色だと思えば、いきなり日本海にでて、海岸まで降りて行く楽しい道だった。しかし途中で、通行止めとなり山の中を国道 191 まで抜けて、萩に向かうことになったのは残念。



写真 154. 道の駅「萩・さんさん三見」



写真 155. 県道 64 の踏切



写真 156. 海を見下ろす踏切



写真 157. 日本海の上に出た



写真 158. 風邪が出てきて白波が立っている



写真 159. 道は海岸まで降りた所で先通行止め



写真 160. 迂回した国道 191 からの眺望



写真 161. 国道 191 のフェニックス並木

しばらく国道 191 を進み、萩の町をスルーして道の駅「阿武町」まで行った。ここは、「道の駅発祥の地として有名な場所」と、青海島のくじら資料館の前の売店のおばさんに勧められた。来てみると結構大きな道の駅だが、ガラガラで閉まっているお店も多い。平日は、日本海側の道の駅なんてこんな物なのではないでしょうか？ 食堂も 1 軒しか開いていなくて、選択肢無し。漁師めしセット 1,300 円を食べたが、まあまあだったなー。



写真 162. 道の駅「阿武町」に到着



写真 163. 大きな道の駅



写真 164. 道の駅発祥の地



写真 165. 円満祈願のオブジェと日本海



写真 166. 漁師めしセット 1,300 円



写真 167. 野島と宇田島

阿武の道の駅をでて、国道 191 号は日本海沿いに走る。最高のお天気で、冬の荒れた海からは想像もつかない美しい海だった。

国道沿いに木製パレット製造会社（柴田木材）の敷地内にパレットが山積みになっているのが見えた。面白い光景だった。その先は、「江崎」という地名で、母の旧姓なので何か親近感が沸いてくる。この旅では淡路島に続いて 2 カ所目である。



写真 168. 珍しい木製パレット工場



写真 169. 山口県にも「江崎」の地名がある

程なく道の駅「ゆとりパークたまがわ」に着いた。「たまがわ」は「田万川」と書いて、近くに温泉があるようだ。島根県に入ってすぐにきれいな三里ヶ浜海岸が見えてきた。その先の持石海岸には、謎の石のオブジェが置いてあるパークキングがある。



写真 170. 道の駅「ゆとりパークたまがわ」



写真 171. 三里ヶ浜海岸



写真 172. 持石海岸



写真 173. 謎の石のオブジェ

この山側に見慣れない高架橋が見えた。道のようなが、よく見ると鉄骨だけ？後で調べたらこの山の裏にある「萩・石見空港」の着陸誘導灯の高架橋だった。



写真 174. 萩・岩見空港の誘導灯



写真 175. 快適国道 191

益田市から、高津川沿いを国道 9 に入る。途中、NHK の「ドキュメント 72 時間」で「山陰・国道 9 号線 うどん自販機ありけり」というタイトルで紹介されたお店に寄ったつもりが、放映されたお店の 100m 位先にも「うどん自販機」がある自販機コーナーがあって、間違ってそちらに行ってしまった。なんか、違和感があったのだが失敗。下調べが甘かった。



写真 176. 高津川沿いの国道 9



写真 177. 違ったレトロうどん自販機

国道 9 を進み道の駅「シルクウェイにちはら」で休憩し、津和野の町を少し通り過ぎて道の駅「津和野温泉・なごみの里」で温泉「あさぎりの湯」に入った。ぬるめの温泉だった。



写真 178. 道の駅「シルクウェイにちはら」



写真 179. 道の駅「津和野温泉・なごみの里」

今日は、42年ぶりに訪れる津和野に宿泊するので、町に戻って宿「原田屋」に行きバイクを止めさせてもらった。



写真 180. 津和野川



写真 181. 宿の前にバイクを停めて観光へ

42年前すなわち1982年は、旅行ブームで「萩・津和野」といえば美しい古都として若者向けの旅行雑誌に紹介されて人気のエリアだった。私たちのような薄汚れたツーリングライダーでさえ立ち寄って見たくなる町だった。



写真 182. 閑散とした市街地



写真 183. 昭和の頃に建物が多い



写真 184. 「CD&TAPES」古い！

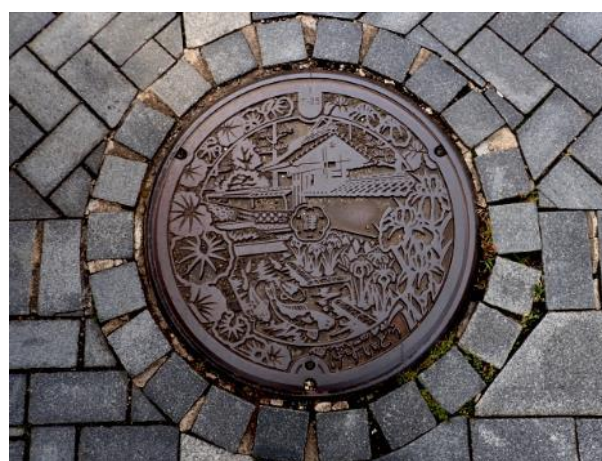


写真 185. マンホール蓋は凝ったデザイン

古い建物もあるのだが、点在するだけで古い町並みを旨く保存できていない。観光客どころか地元の人にもほとんど会わない。



写真 186. 有名な鯉が見れる米屋



写真 187. 造り酒屋 (1)



写真 188. 造り酒屋 (2)



写真 189. 津和野町日本遺産センター

町の中央にある津和野町日本遺産センターは、新旧の津和野風景が比較できるコーナーなどが有って面白かったが、見学客は私を含め3人ほど。センターの若い女性職員が色々と説明してくれた。昭和の時代の賑わいは話に聞いているが、生まれる前の昔話となっているとのこと。半分冗談だとは思いますが、今は「島根県内で一番早く消滅する町」として危惧されているとのこと。



写真 190. 殿町通り (1)



写真 191. 殿町通り (2)

ただ、殿町通りを役場の方に行くと昔ながらの屋敷と堀割を整備していて、ここは美しい町並みを残している。



写真 192. 津和野カトリック教会



写真 193. 堀割の鯉

堀割の錦鯉がひとつの目玉観光品だったので、残されていたのは嬉しいが、前より鯉が減っている。鯉も津和野離れが進んでいるのか？津和野に良くある上側が広がっている古い土塀や中田医師の生家など、手入れがされずに朽ち始めているのが悲しい。



写真 194. 崩れた土塀



写真 195. 中田瑞穂先生生家



写真 196. 宿と道を挟んでぽつんと1台

本日は宿の客は私一人。一人のためにこんなご馳走を造っていただき、感謝である。すべて美味しいお料理でした。



写真 197. 原田屋さんの夕飯

ここで検証、42年前のこの写真を撮ったところを Google マップのストリートビュー探してみる。



写真 198. 多分殿町通り

背景からして藩校養老館前なのだが、壁の形が違う。ストリートビューを違う方向から見たら、42年前と同じ壁が出てきた。調べたら、「殿町通りに面した武術棟は2018年に外観は藩校時の姿に復原されました」とのことだった。



写真 199. 養老館最新ストリートビュー



写真 200. 養老館補修前ストリートビュー